みの MINO EDO
東京⇌笠原情報誌　MAIL版

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-2141
発信：多治見市・笠原町東京情報局
tilesea.ms@gmail.com
＊協議会のウェブサイトでも公開しています。
NO 220
2019.12.14

多治見市モザイクタイルミュージアム
受託記念企画展・広正製陶・半谷孝コレクション

「金型の精緻・精巧美の世界」

世界へ羽ばたいた和製マジョリカタイル

開催中

多治見市モザイクタイルミュージアム（岐阜県多治見市）では、和製マジョリカタイルの金型が寄託されたことを記念し、企画展を開催（～2021年1月11日（月・祝）まで）。タイル輸出の歴史を伺い知れる内容となっている。

ヒンドゥー教の神々が描かれた和製マジョリカタイルの金型は、鈍い輝きを放ち、まるで工芸品のようだ。インドの建物や街角の写真も展示された会場には、異国情緒が漂う。

和製マジョリカタイルとは、大正時代のはじめから昭和10年代に日本で製作された多彩色のレリーフタイルのこと。最盛期には東南アジアから、遠くアフリカやインドにまで輸出。今回主役となったのはインドへの輸出用タイルの金型だ。

神々の姿を忠実に描いたタイルは人気を博し、邸宅や寺院などで多く用いられたという。展示のメインとなる6～9枚組の金型から製作されたタイルは現地で使われている様子を写真で紹介。その姿は今もなお色鮮やかで、昭和初期の日本のタイルが現代のインドで見られることに驚くばかり。

ところで当時宗主国であったイギリスのものではなく、なぜ日本のタイルが求められたのか。企画展に合わせて発行された小冊子では、そうした歴史的文化的背景が綴られており興味深い。

海外への渡航がままならない現在、しばしインドへ旅した気持ちになれる展示である。

ラクシュミー
富と幸運を司る女神。
4本の腕があり、
後方の手は蓮をもち、
蓮華座に立つ。

広正製陶タイル金型
〈ラクシュミー〉*1
©KATO Ikumi

9枚組の組絵タイル
〈ラクシュミー〉*2

現在はホテルとして営業している邸宅の中庭にある祭壇に掲げられている。

洗濯石鹸「サンライト」の
販促カレンダー（1933年）*3

イギリスは植民地インドで、ヒンドゥー教のイメージを商品ラベルなどに取り入れた。人々はこうした神々のイメージを額装し、調度品として、ときには礼拝画として家中に大切に飾った。

＊1 会沢則子 蔵（モザイクタイルミュージアム寄託）
＊2 撮影地：インド／写真提供：豊山亜希
＊3 加藤郁美 蔵

現地で撮影したタイルと金型を対にして展示。

広正製陶タイル金型〈サラスヴァティー〉*1
©KATO Ikumi

サラスヴァティー

学芸を司る女神。
4本の腕があり、
前の手で弦楽器を奏で、
数珠と教典をもつ。

広正製陶タイル金型〈ヴィシュヌ〉*1
©KATO Ikumi

9枚組の組絵タイル
〈ヴィシュヌ〉*2

左上:タイル〈ガネーシャ〉*4
左下:広正製陶タイル金型〈ガネーシャ〉*1

タイル〈シヴァ〉(転写プリント)*4

右上:タイル〈クリシュナ〉*5
右下:広正製陶タイル金型〈クリシュナ〉*1

ヴィシュヌ

宇宙の維持を司る
ヒンドゥー教最高神の一人。
4本の腕があり、
円盤、巻貝、棍棒をもつ。

左:タイル〈ヴィシュヌ〉*4
右:タイル〈ヴィシュヌ〉*6

*4 佐治タイル 製造／豊山亜希 蔵
*5 豊山亜希 蔵
*6 佐治タイル 製造／加藤郁美 蔵
*7 モザイクタイルミュージアム 蔵

企画展にちなみ、ミュージアムで所蔵するマジョリカタイルを展示
(ここで紹介しているのは、大正末〜昭和初期のもの)。

上:楓理容店　マジョリカタイル(浦と帆掛船)／
多治見・佐藤化粧煉瓦工場
(後の上山製陶)*7

下:楓理容店　マジョリカタイル(鶴)／(同上)*7

マジョリカコースター

昭和初期にインドへ出荷していた商品。
金具の袴をつけてコースター
として販売された。

多治見・日本タイル工業
(旧長谷川製陶所)製造*7

現在、土日祝日の入館は事前予約制。
詳しくはミュージアムのウェブサイトを参照。

アートが生み出すタイルの新機軸

TAJIMI CUSTOM TILES TOKYO 2020

10月31日（土）～11月3日（火・祝）、オーダータイルのブランド「TAJIMI CUSTOM TILES」がMAHAL（東京都渋谷区）にて展示会を開催。デザイナー、イ・カンホ氏、マックス・ラム氏とコラボレーションした作品が会場に並んだ。

Kwangho Lee
異なる長さの成形が可能なモジュールを縦横の両方向に重ね合わせ、かつ組み合わせた作品。

Max Lamb
立体的なタイルをパズルのように組み合わせた作品。特殊な釉薬を使用し、伝統的なタイルに見られる深い奥行きのある色合いを再現。

「TAJIMI CUSTOM TILES」は、岐阜県多治見市のタイルメーカー・株式会社エクシィズが展開するブランド。多治見の複数のメーカーと連携し、オリジナルタイルを受注製作している。

会場に展示された作品は、多治見のタイルの技術と美しさを伝えるべく、同ブランドがマックス・ラム氏（イギリス）、イ・カンホ氏（韓国）に制作を依頼したもの。今年のミラノサローネ*にて発表する予定が、コロナ禍で中止となり、東京での展示会開催となった。

制作にあたって両氏は多治見に滞在。タイル工場を見学したり、職人と話したりする中で作品を構想。完成

デザイナー両氏の小さな作品を販売。ファンも多数来場した。ニューヨークのギャラリーからは会場に展示した全作品を購入したいという申し出もあった。

屋外にも作品を展示できるのは、タイルだからこその強み。

化粧品のショールームの床に使うために製作したタイル。窯の中に置く位置の違いで生じる色合いの濃淡も味わいとなる。

した作品はパーツを組み合わせて出来上がる大型の家具やオブジェで、従来のタイルのイメージを大きく超えるものとなった。

「ふだんタイル業界に関わることのないファッションやアート業界の人たちに、タイルでこんなことができるなんて、面白い！と思ってもらえたら」とエクシィズの笠井政志さん。

表参道近くという会場の立地も奏功し、ファッション関係者や、通りがかりに入った子ども連れの若い夫婦など、様々な人が来場した。

ファッションデザイナーの方から「作品を自分のショップで使いたい」という声もあったといい、「これまで考えもしなかったアイデアをいただけました」と笠井さんは手応えを実感。

店舗の内装などでは、建築士やデザイナーが個性的なタイルを求め、結果、輸入品が選ばれてしまうことも多い。新しいブランドを立ち上げた背景には、そうした状況を変えたい、という思いがある。「これからも常に新しいものを作り出し、多治見のタイルのポテンシャルの高さを伝えていきたいです」と意欲を語る。

同ブランドではすでに2件のオリジナルタイルを製作。発注者にも好評を得ているという。

今後も新たなタイルが生み出されていくことだろう。

展示会場の様子は下記サイトにて公開中
https://my.matterport.com/show/?m=KCJu3bk9qwE&lang=en

Max Lamb氏のインタビュー動画
https://tajimicustomtiles.jp/ja/collaborations/
新築中の自宅のバスルームでは、今回制作したピンク色のタイルを使うと話す。

＊ミラノサローネ
イタリアのミラノで毎年4月に開催される世界最大規模の家具見本市「ミラノサローネ国際家具見本市」の通称。今年はコロナ禍で中止となった。

タイル壁画「青竜」でコロナ収束を願う！

BAMBOO EXPO 14

商空間づくりに特化した合同展示会「BAMBOO EXPO」。今年は10月29日（木）、30日（金）に「オンライン+リアル」で開催。リアルの会場では、多種多様なタイルが使われた竜の壁画が登場した。

六角形のタイルの中には参加16社のロゴマークが入る。

四角いタイルの中に別のタイルをはめ込んである。「張ってみたら、街みたいになりました」（白石さん）

「竜は小さい頃から描いています」と小坂さん。タイル壁画制作は、展示会を主催するバンブー・メディア代表の笈川さんのアイデア。

ひげを浮き上がらせた部分。

30日の会場は、恵比寿駅（東京都渋谷区）近くのEBiS303。竜のタイル壁画は会場の壁に設置。空間デザイナー・小坂 竜さんによる原画を元にタイル職人・白石 普さんが制作。壁画に使われた数千枚、数十種に及ぶタイルは、タイル業界16社で組織されたグループTILING WORLDの各社が提供した。

「小坂さんの原画をいただいて、このスピード感をどう表現するのか、だいぶ考えました」と白石さん。左から右、現在から未来へと向かう竜の勢いに合わせて色調を明るくし、竜を立体的に表現。ひげの部分はタイルの裏側に針金を通して浮かび上がらせた。壁画の中心となる竜が持つ玉は深いブルーの陶板。目の部分は会場で小坂さんが入れることになっている。

17時からは壁画の前で「コロナ禍が空間デザインにもたらしたもの」と題し、トークセッションが開催された。登壇者は小坂 竜さん（乃村工藝社）、寶田 陵さん（the range design代表）、數坂幸生さん（乃村工藝社）、聞き手は笈川 誠さん（バンブー・メディア）。外の天気を感じられる空間や緑化など、空間デザインにおける自然回帰の傾向や、本物の素材が求められていることなどが語られた。

トークセッション終了後、金色の目が小坂さんによってはめ込まれると、竜は生命を得たように力強さを増した。「かなりクオリティが高くできています」と小坂さん。「ひげの立体的なつくりがすごいですね。手が前に飛び出て見えます。タイルって多様な表現ができるんだ、と感激しました」と讃えた。

近づいて細部をじっくり見たり、写真におさめたりする人もいて、来場者の関心の高さが伺われた。

展示会終了後、壁画はひとまず保管され、今後の設置場所を探す。未来に向かう竜にふさわしい居場所が見つかることが望まれる。

会場の様子。
約50社が出展した。

トークセッションは
タイル壁画の前で行なわれた。

白石 普さん（左）と
小坂 竜さん（右）

TILING WORLDは、「タイルの未来を切り開く」というテーマを掲げる。各社の見本とカタログ（左）やリーフレット（右）も用意。

第42回

ジャパンホームショー開催！

全国タイル業協会「CERAMIC TILE PLAZA」

2020年11月11日（水）～13日（金）、東京ビッグサイト（東京都江東区）において住宅・建築関連専門展示会「Japan Home & Building Show 2020」が開催された。「第42回ジャパンホームショー」のほか、「第4回団地・マンションリノベーション総合展」、第5回「店舗・商業空間デザイン展」などを同時開催。
全国タイル工業組合の出展ブース「CERAMIC TILE PLAZA（セラミックタイルプラザ）」を紹介する。

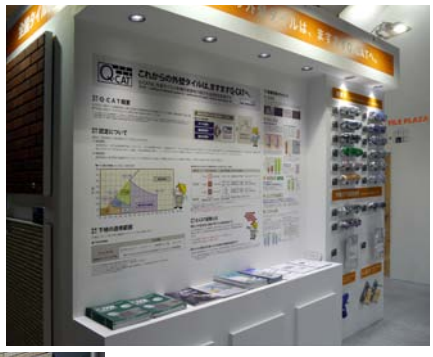
果樹園の風景を描いた新作のモザイクタイル壁画。手前にはタイル張りの洗面所を設置した。おなじみ、Q-CATマスコットキャラクター・Q太くんは、オリジナルのマスクをつけて登場。

戸建て住宅に見立てた「CERAMIC TILE PLAZA」のブース。

タイルの施工事例の写真を多数展示。

例年と同様、Q-CAT認定タイルや認定接着剤等を展示。ブース内イベントとして実施していた女性職人による接着剤張りの施工実演は、密集を避けるために中止とした。

＊Q-CAT：外装タイルと有機系接着剤の組合せ品質認定制度）



アンケートに回答した方に進呈するQ太くんのオリジナルグッズも今年はマスク。

「CERAMIC TILE PLAZA」の展示会場は、昨年と同様「西エリア」。全国タイル工業組合員23社、38枚の新作タイルのパネルを展示した。

展示コンセプトを「おうちTIME×おうちTILE」とし、コロナ禍において在宅の機会が増えたことによるタイル張りのDIYを提案。内外装のタイル張り施工例の写真を多数紹介。

また、新作のモザイクタイル壁画が来場者の注目を集めた。手前にはタイル仕上げの洗面台を設置し、手洗いとうがいがこれまで以上に励行される中、改めて水まわりを得意とする素材であることを伝えた。

今回入場は事前予約制。総入場者数は減少したものの、建築・設計関係者を中心に目的意識の高い来場者が多く見受けられた。また、他にタイル関係の出展はなかったようだ。

「CERAMIC TILE PLAZA」

全国タイル工業組合の出展ブース
「CERAMIC TILE PLAZA」で展示した
組合員各社の新作タイルパネルを紹介。

オザワモザイクワークス

「ビッツボーダー」

織部製陶

「クレイマイスターライト」

各務製陶

「トライ／バーンズ」

カネキ製陶所

「古窯変75二丁」

三協製陶

「レース」

鈴製陶

「パタラ／
コンサートシリーズカンタービレ」

セラメッセ

「(仮)ピュアグリット」

玉川窯業

「かるかるブリック
Sサイズ・Lサイズ」

長江陶業

「ラミ」

名古屋モザイク工業

「ミューク」

日東製陶所

「アスペリダ」

ニッタイ工業

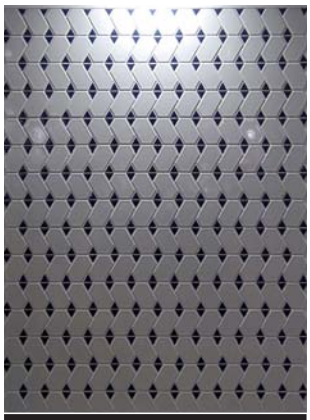
「砂城壁／アーチボーダー」

丸万商会

「ヘキサゴン オリジナルパターン／
カラーズ オリジナルパターン」

山周セラミック

「ナチュレ」

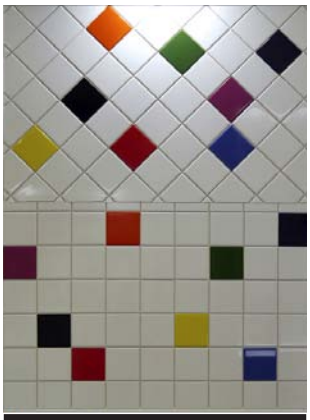


山延製陶所

「ペリエ PAT-3」

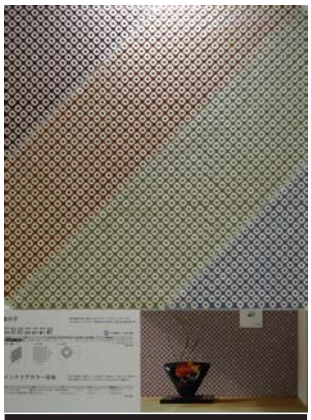
Danto Tile

「テフラ／
TFR-500ランダムミックス」



KYタイル

「フォンセーヴ 100角セット」



LIXIL

「鹿の子＋インテリアカラー目地」

TChic

「ポーロ」

TNコーポレーション

「デルフロア」

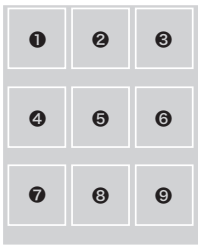
アイカ工業

「タイル用接着剤」

美濃焼クールアイランドタイル振興会
美濃焼CTタイル振興会

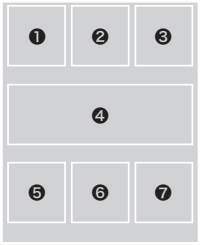
「美濃焼クールアイランドタイル 各種／
美濃焼CTタイル 各種」

モザイク工房



❶玉川窯業
❷オザワモザイクワークス
❸各務製陶
❹オザワモザイクワークス
❺各務製陶
❻オザワモザイクワークス
❼山延製陶所
❽玉川窯業
❾山周セラミック

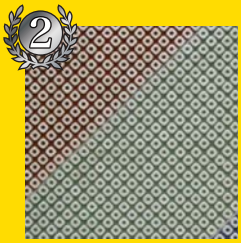
24　モザイク工房



❶各務製陶
❷山周セラミック
❸オザワモザイクワークス
❹丸仙化学工業所
❺山周セラミック
❻玉川窯業
❼山延製陶所

新しい素材感のあるタイルが人気

来場者に毎年実施しているタイルパネルの人気投票。今回、1位となったタイルを選んだ理由としては、「タイルとは思えない見た目に惹かれた」「異なるテクスチャでデザイン性がある」などが挙げられた。2位、3位まで、新しい感覚や素材感をもつタイルが続いた。



1位 ラグジュアリーモザイクⅡ×ヴィーレ×シルクリーネ（LIXIL）
2位 鹿の子＋インテリアカラー目地（LIXIL）
3位 デザインパネルキット　Art&Photo（LIXIL）